

【学校教育目標】

「感性豊かに 学び合い 認め合い
ともに高め合う生徒」
・身体を高める ・知を高める
・心を高める

伝統を 継承発展！ 生徒会！

10月29日（木）の午後、平成27年度後期生徒総会を行いました。

第1号議案 平成27年度前期生徒会活動の振り返り（岩佐 康平さん）

第2号議案 平成27年度後期生徒会スローガン及び活動方針について（渡邊 壮史さん）

第3号議案 平成27年度後期専門委員会活動方針について（各専門委員会委員長）

第4号議案 ディスカッション テーマ「“須走中しぐさ”を、より充実させよう！」

以上の4つの議案を全校生徒が真剣に話し合いました。

平成27年度後期生徒会スローガン及び活動方針について

スローガン



【後期生徒会長 渡邊 壮史さん】

後期生徒会のスローガン「全力」には、次のような思いが込められています。「全力」の言葉にある、全ての力を注ぐという意味通り、後期の行事やテストはもちろん、一日一日を須走中生徒全員が全力で取り組もうという思いで考えました。このスローガンを目標に、後期生徒会では、3つの柱を立てました。

1つ目の柱は「学力」です。この柱では、普通の授業やテスト前の勉強への取り組みの改善、向上を目指していきたくと思います。それらについてのキャンペーンや勉強会などを、縦割り活動と関連させながら行っていきたくと考えています。

2つ目の柱は「協力」です。縦割り活動を通し、3学年間の交流を深め、学校全体での協力を目指して活動していきたくと思います。その縦割り活動は、生徒集会を中心に行いたくと考えています。3学年間の交流を深めて共通意識を持つことで、学校全体で取り組む様々な活動を成功させたいと思います。

3つ目の柱は「活力」です。活力は、須走中しぐさと短歌を関連づけていこうと思っています。須走中しぐさを常に意識して実践している人は、正直あまり多くないと思います。一人一人が常に意識を持ち、今までの先輩方が築き上げてきた須走中の伝統としてとらえ、実践していくために、今回の生徒総会でも議題に取り上げ、意識を高めていけるような活動を考えたいと思います。その中で、「須走中しぐさキャンペーン活動」なども行っていきたくと考えています。また、短歌は、自分の思いを文字にして残し、様々な人へ発信することができる、とてもいい方法だと感じています。前期に引き続き、短歌を詠む機会を増やしていきたくと考えています。

後期生徒会は、これらの全てのことに「全力」で取り組んでいこうと思っています。「全力」というスローガンのもと、須走中をさらに向上させ、よりよいものにしていきましょう！

須走中教職員一同、後期生徒会のスローガン「全力」に込められた熱意に応えられるように、教育活動に臨んでいきます。

保護者や地域の皆様、今後共、御支援・御協力をよろしくお願いいたします。

平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について

4月21日（火）に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果を分析しました。下記の資料は、「小山町の教育『平成27年度全国学力・学習状況調査』からみえる小山町の子ども」を参考に「須走中学校の国語・数学・理科の結果」を分析し、成果と課題を記載しました。

また、本日、「静岡県教育委員会発行のリーフレット」を配布しました。ぜひ、お子さんといっしょに目を通していただき、「生きる力の育成～確かな学力をめざして～」、これからの授業・家庭学習・生活に生かしていただきたいと思っております。御理解のほど、よろしくお願いいたします。

須走中学校の国語

○：良い点(成果)

●：改善点(課題)

＜ 成果 と 課題 ＞

- 根拠を示しながら、自分の考えを他者に伝えることを意識して、文章を書く力が身につけてきています。
- 問題文をよく読み、何を問われていか(理由、具体的内容等)を的確に把握し、それにふさわしい解答方法十分に意識して答える力が身につけてきています。
- 限られた時間内に文章全体の論旨を捉え、論点に迫る正しい読みをしようとする力が身につけてきています。
- 「文脈に即して漢字を正しく読んだり書いたりする力」がやや弱い傾向があります。
- 具体的根拠をもとに自分の意見を構築し、それを簡潔かつ明瞭に筋道立てて書くことが難しいと考えている生徒が多く見られます。また文章の統一性を図ることや、適切な接続詞を使うことが苦手な生徒が多く、書く力の一層の向上が必要と考えられます。
- 問題によっては無回答率がやや高いものがあり、問題そのものの理解に時間を要したり、時間配分を適切に行うことができなかつたりする傾向があります。

＜ 授業の改善・充実に向けて、須走中学校での今後の取り組み ＞

- ・日頃の授業の中で、書くことで自分の考えを整理したり、学習内容を自分の言葉でまとめたりする活動を多く取り入れ、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けていく指導を継続的に行います。
- ・書くための目的や効果を指導した上で、文章の中から根拠となる文や言葉を見つけ、それをもとに時間を指定して自分の考えを書いたり、見やすく表にまとめたりする活動を取り入れていきます。
- ・作品を読み、最後に筆者の意図を捉え、字数制限を設けて時間内にそれを書く活動を取り入れていきます。
- ・生徒同士の意見交換の場をもち、よりよいものに仕上げていくための「推敲」活動を取り入れていきます。
- ・生徒の思考の流れが分かる板書や、学習課題に対する考えをもつ手助けとなるシートの作成等を心掛けます。

須走中学校の数学

○：良い点(成果)

●：改善点(課題)

＜ 成果 と 課題 ＞

- 正の数・負の数や文字式の計算、1元1次方程式を解くなど基礎的な計算力や、図形の平行移動や投影図から立体を読み取るなどの図形の基本的な理解については、県や全国と比べても本校生徒の正答率が高いです。子どもたちが真面目に授業に取り組み、スキルを身につけてきたと言えます。また、基礎計算や基本用語を系統性のある別の単元でも扱っているため、用語の理解の定着が図れていると言えます。
- 身近な事象から関数関係を見つけ説明することや、統計資料から全体像を把握して特徴を説明するなどといった数学的な見方や考え方を身につけることが課題です。また、文章の中から数量の関係を等式で表すことや、見つけた関係について文字をつかかって表すことは非常に苦手としているということがわかりました。自分で考え、相手に自分の見解を伝える力の育成が課題であると考えます。

＜ 授業の改善・充実に向けて、須走中学校での今後の取り組み ＞

- ・毎授業のスキルトレーニングで、基礎的な計算力を継続的に伸ばしていきます。
- ・数学用語は、教科書で言葉の意味をしっかりと押さえると同時に、系統性のある別の単元でも扱い、繰り返し基本の定着を図っていきます。
- ・具体的には、資料の整理や活用では学級の様子を捉え分析するなど、子どもの身近にある事象を扱い興味・感心を抱く教材を開発・工夫していきます。
- ・調べたこと、分かったことを数学的な根拠、用語を用いて相手に分かりやすく説明する言語活動を取り入れ、子どもが主体的に、協同的に学ぶアクティブラーニングを目指していきます。

須走中学校の理科

○：良い点(成果)

●：改善点(課題)

＜ 成果 と 課題 ＞

- 物理・化学・生物・地学の4領域の中では、化学領域の正答率が静岡県及び全国を大きく上回りました。特に、グラフを読み取ったり実験方法を考えたりする問題の正答率が高かったです。これは、日々の実験を単なる操作や表面的な驚き・楽しさで終わらないように配慮して行い、結果の処理方法や考察を重視してきたことが成果につながったものと思われまます。
- 3種類の問題形式の中では、選択形式のみがわずかに静岡県の正答率を下回りました。具体的には、溶解度の差から溶け残る量を比べる問題、気温と露点から湿度を求める問題等の具体的な場面に当てはめて計算する問題や、雲のでき方に関する問題のように一見どれも正しいように思える選択肢の中から間違っているものを答える問題で正答率が低かったです。選択形式の問題は思考力・判断力を駆使し、じっくり考えて正解を選択する問題が多いです。本校の生徒は、「活用」の中でも「表現力」は特に問題はないようですが、「思考力」「判断力」では課題が残っているように感じられます。

＜ 授業の改善・充実に向けて、須走中学校での今後の取り組み ＞

- ・「思考力」「判断力」は短期間に向上させることはできないので、これまでの取り組みを継続しつつ、取り組みの質を向上させていきたいと思ひます。話し合い活動は「思考力」「判断力」「表現力」を高めるために重要となるので、引き続き授業の中で取り入れていきます。「思考力」にはたきかけるテーマを与えたり、記録しながら話し合いを進めたりすることで、話し合いの質を高めたいと思ひます。
- ・生徒がより高い「思考力」「判断力」をはたらかせる観察・実験となるように、観察・実験においては目的を各生徒が明確に把握して臨むとともに、レポートでは「考察」の項目を充実できるよう指導していきます。